

04 春闘推進ニュース



全国労働組合総連合
TEL:03-5842-5611
FAX:03-5842-5620

全労連ニュース速報 NO.765

2004/04/14

許すな！ 雇用・賃金・年金破壊 守ろう！ 平和と憲法

共同デスク報告 ④

本日の厚生労働委員会は6時間コースで行なわれました。詳細は明日のニュースでお知らせします。厚生労働委員会開始に先立って開催された、委員会の理事懇談会では、16日に22日の公聴会を設定することを与党は通告してきました。何が何でも連休前に衆議院で採決し、参議院に送付する構えを崩していません。4・15年金ストでの全国100万人を超える人たちの行動と、それを力にしたその後の全国からの運動で、必ず廃案に追い込みましょう。同時に緊急に「慎重審議」を求める厚生労働委員長への要請を取り組みましょう。

地元国会議員への事務所を訪問し、自民・公明の与党へも、また、最後まで廃案で力を尽くしてほしいことを3野党に申し入れましょう。

第5次国会座り込み行動に200人 年金改悪反対、イラクから自衛隊は撤退を

全労連、国民大運動、中央社保協、安保破棄中央実行委と有事法制許すな連絡センターは共催で4月14日、「3人のいのちを救え、自衛隊の即時撤退、有事関連法反対、年金改悪反対」を求めて国会議員会館前で第5次座り込み行動を行ない、200人が参加しました。国会からは日本共産党の佐々木憲昭衆議院議員が激励に駆けつけました。同議員の国会報告の後、年金者組合の神谷さんが年金改悪反対署名を手渡しました。医労連の田中委員長、日本平和委員会の佐藤代表理事、全教・日高教の小沢書記次長、障全協の阿部副会長また埼労連の山崎幹事が各界を代表して決意表明し、全労連の沢中常任幹事が、すべての地域で自衛隊の撤退を求めファックス、メールなどを政府に集中し、宣伝署名行動を強化していくこと、年金改悪反対の行動を強化し、明日も4・15年金ストに呼応して11時から座り込み行動をすることなどを提起しました。

主催者挨拶 全労連・西川副議長

昨日、イラクで人質となっている3人の即時解放を求めて1200名で国会請願デモをした。明日15日は年金問題でストをする。3人の誘拐事件が起きてから1週間になるが、彼らは相当消耗し、その家族の方々も心労の日々を送っているはず。先日、北海道東京事務所に行って今井さんのお兄さんに会い、私たちが自衛隊の即時撤退を求めて草の根で運動していることを伝えた。お兄さんの顔が明るくなったのが印象的。私たちの運動が家族も激励していることを実感した。国際社会における日本の役割は憲法9条に基づく対応であり、自衛隊のイラク撤退は3人の人質の解放につながるもの。自衛隊のイラク撤退は、日本の国際社会に対する責務である。また、有事関連7法案が審議入りしたがこれはアメリカの利益を確保するため日本国民、領土をアメリカの好き勝手に使わせる法案であり、絶対に許すことはできない。年金については、今出されている法案は憲法25条の生存権を覆すものである。昨日、中小企業同友会と懇談をしたが、年金改悪が進み消費税が増税さ

れたら中小企業はとて厳しくこのままではいけないとの声が中小企業の中にも広がっている。この点で全労連と一致する。明日の**4.15**年金スト成功に向けてたたかう。

国会報告 日本共産党・佐々木憲昭衆議院議員

午前中開かれていた厚生労働委員会は人があふれかえり、年金改悪を許さないとの思いが現れていた。現在の緊急課題のひとつはイラクの**3**人の解放。彼らを救えとさまざまな団体から要請がきている。また、家族は精神的にも肉体的にも大変な状況にきている。今大事なことは**2**つ。その一つは、日本政府はアメリカに掃討作戦の中止を求めること。ファルージャでは多くのイラク国民がアメリカに抵抗しているが、人質となっている**3**人はそこにいるのではないかとわれている。アメリカの無差別殺戮をやめさせることが大事。もう一つは自衛隊の撤退。今、「人質になったのは自分たちの責任」といった攻撃がされているが、親のない子を助ける、劣化ウラン弾の調査など真の人道支援が危機にさらされているのは自衛隊の派兵のせいではないか。政府は勇気を持って自衛隊の撤退を決断すべき。私たちは直ちに自衛隊を撤退し**3**人を救出せよとの声を広げていく。年金問題については、負担は増やし給付は減らすといったとても無慈悲な改悪案が提出されている。私たちが求めるのはすべての国民が最低**5**万円の年金を受給し、積み立て分は上乗せするといった年金の底上げである。民主党の提案も年金財源を消費税に求めたもので、消費税など庶民に負担を押し付けるような方法では真の年金の改正ではない。年金闘争もこれからが正念場私たちは最後までたたかう。

兵庫：西播地域労連

4・15年金スト前夜祭で決意を固めた

4・15年金ストの前段の取り組みとして行われた「播州くらしと平和市民まつり」が十日、年金大改悪反対、増税許すな。自衛隊はイラクから撤退せよ、日本は平和憲法を守れ、のスローガンを掲げ姫路大手前公園で行われました。きれいに晴れわたった会場には、参加団体**500**名あまりと姫路市民延べ**1000**名以上が、市民まつりを楽しみました。

開会宣言を行った西播労連入江議長は、イラクで人質に足られた**3**人の無事解放のために何の大儀もない自衛隊は撤退すべきだ、大企業とアメリカべったりの政治に終止符を。実行委員会を代表した竹島弁護士は、地域から改革の共同の輪を広げていこうと訴えました。

舞台では、年金改悪に反対する紙芝居の上映。国公労連の「訴えたいんジャー」は子供をも巻き込んで舞台を埋め尽くしました。

平和の課題でも、姫路労音は、沖縄のエイサーを上演し日本と世界の平和を訴えました。また、飛び入りでも市民のバイオリニストが、人質**3**人の早期解決を求め、自衛隊の早期撤退を訴え、演奏を披露しました。

雇用・労働相談、争議支援、年金、平和、教育、山電地下化などの各ブースも盛況。参加者の胃袋を満たす各バザー、焼きそば、おでん、たこ焼き、イカ焼き、も列を作る盛況ぶり。沖縄ビールや各地の地酒も飛ぶように売っていました。

子供たちも満喫しました。スローガンをプリントした風船、SL機関車など子供たちにも人気を博しました。参加チケットには福引券も付いています。自転車、CDカセット、アイロン、レジャーグッズもあって**300**円のチケットは好評でした。

組合を結成したばかりの建交労「共栄運輸分会」の若者は、おでんのブースを作って参加、たくさんの人出と、働くものの連帯を肌で感じ興奮気味で来年も必ずやろう！と話していました。